

夏を涼しく

つゆあけのすまいの手入

うつとうしいつゆがあげ、じめじめした毎日からホッとしたと思うと、今度はカンカン照りの暑い夏がやってきました。そこでつゆあけのすまいの手入れと、暑い夏をできるだけ涼しく過すための工夫をしてみましょう。

△つゆ明けの大掃除

まず、つゆの間にしみ込んだ湿気を追出すために大掃除をしましょう。畳のほこりをはたいてよく乾かすと同時に、畳をあげた後の床下を十分に乾かして下さい。床下の換気口をふさいでいる道具類や草を取りのけて、床下をいつも風が通るようにしましょう。畳の下だけでなく、日頃でも湿気がちの台所や風呂場の掃除も肝心です。

土台などの石やコンクリート、土に近い木材、湿気のかかり易い炊事場や風呂場の木の部分には、よく乾燥させて防腐剤を塗ってやります。畳を入れる時も、下にアスファルトフェルト等の防水紙でも敷いてやると、畳の湿気が防げて、ノミの予防にもなります。

家具の置き方で涼しさを

さて大掃除で出した家具を運び込む時、ちよつと工夫してみましょう。折角の窓をタンスが防いでいけませんか、家具の置き場所や置き方によって風の通り道をさめることができきちんと整とんされた部屋は涼しさを感じさせます。すだれを掛けたり、カーテンをレースに取りかえたり、椅子のカバーも涼しい色に、金魚鉢にふうりんの音を添えるなど、ちよつと工夫すればうんと感じが変つてくるものです。

更に夏のすまいで大切なことは「日蔭」をつくることです。日中や西日の直射を防ぐためにはスタレなどを張るほか、つる草や落葉樹などを植えるのもよいでしょう。

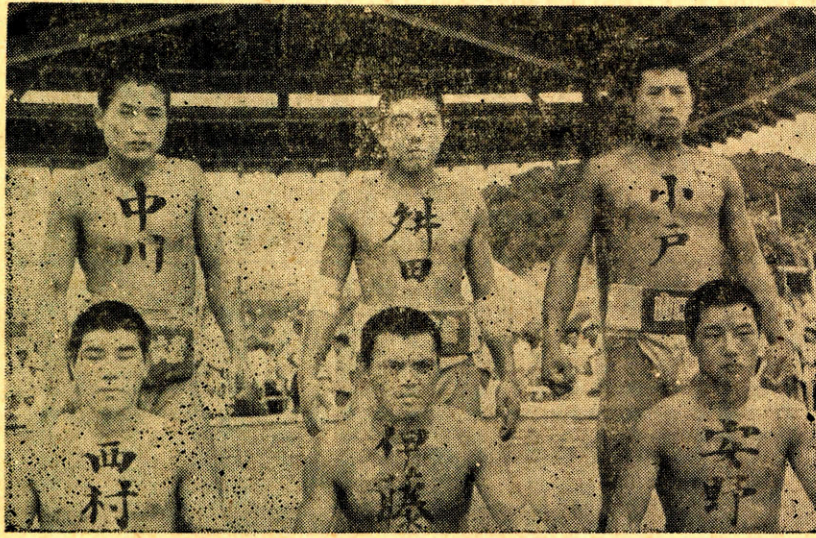
直射日光だけでなく、テラスや周囲からの照り返しも強いものです。私たちの祖先が軒の深く出た家に住んで、庭に樹を植えて楽しんだことも考えさせられるものがあります。

全国高校相撲県予選団体は水高、個人は小戸君優勝
38年山口団体の相撲会場と

この広報は七月十五日市役所を発送致しました

決定した長門市ではじめての県大会である才39同全国高校相撲選手権大会山口県予選がさる七月二日水産高校相撲場で行なわれました
この日参加したチームは九チーム（選手約六十名）で熱戦を展開しましたが成績は次のとおりです。

- 【団体戦】
(優勝) 水産高校
(二位) 宇部工高校
- 【個人戦】
(三位) 萩商工高校
(四位) 萩高校
優勝 小戸昭洋(水産高校)
二位 米原 賢(美祿高校)
三位 志村寿彦(防府高校)
四位 西村孝明(水産高校)
なお、この結果、団体優勝の水産高校と個人優勝の小戸君はさる7月29日大阪府立体育館で行われる全国大会に出場することになりました



観光客を温かく迎えますよう

近年特にレジャー(余暇)を楽しむ人たちが増加し、全国的に各観光地を訪れる客があとをたちませんが、長門市も大いにその影響をうけています。昨年中市を訪れた観光客は約四十万人といわれております。

この人たちが長門市に落ちた金は相当な額にのぼると想像されます。これは、旅館や観光業者のみの利益だけでなく、広く本市一般の産業なり、生活にプラスしていることは確実です。

しかしながら、いくら国定公園、「青海島」国民保養温泉「俵山」「湯本温泉」等の観光地を持つていても、そこに住む一般住民にお客さんを暖く迎える心がなければ、せっかくの観光客により多くの満足感を与えることは出来ません。

例へば、九州の某県は、観光客として知られていますが、一般県民の交通道徳、観光客へのエチケットはよく守られており、観光バス等で行くと、地元の方は必ず先に停止し道を譲る習慣があり観光客に非常に民持の良い感じを与えております。

会旅館組合等が施設、環境の整備、サービス向上に努力しても県民全部の観光に対する深い関心と理解ある協力がないければ観光の振興は望めません。

お互いが、私たちの街を、いつもキレイにして観光客を暖く迎えますよう。(写真、今日も観光客で賑わっている仙崎渡船場附近)

